

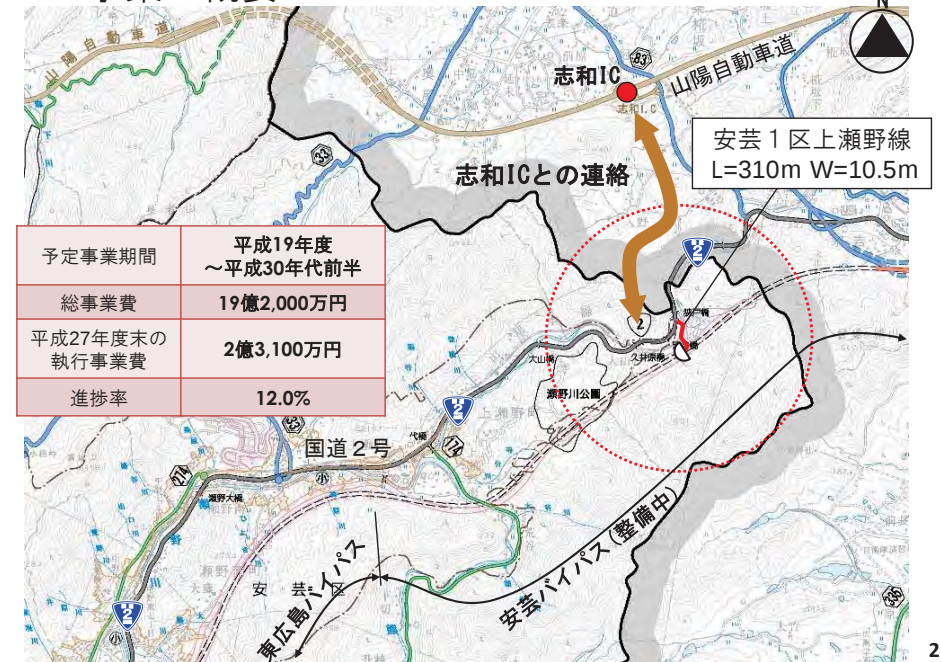
道路事業

安芸1区上瀬野線

(道路交通局道路部道路課)

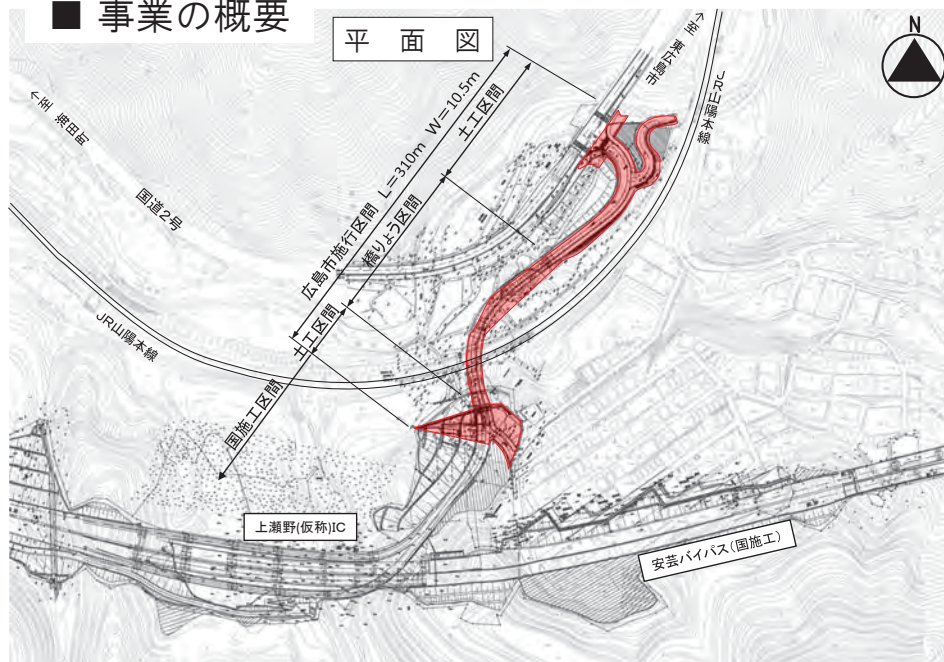
1

■ 事業の概要



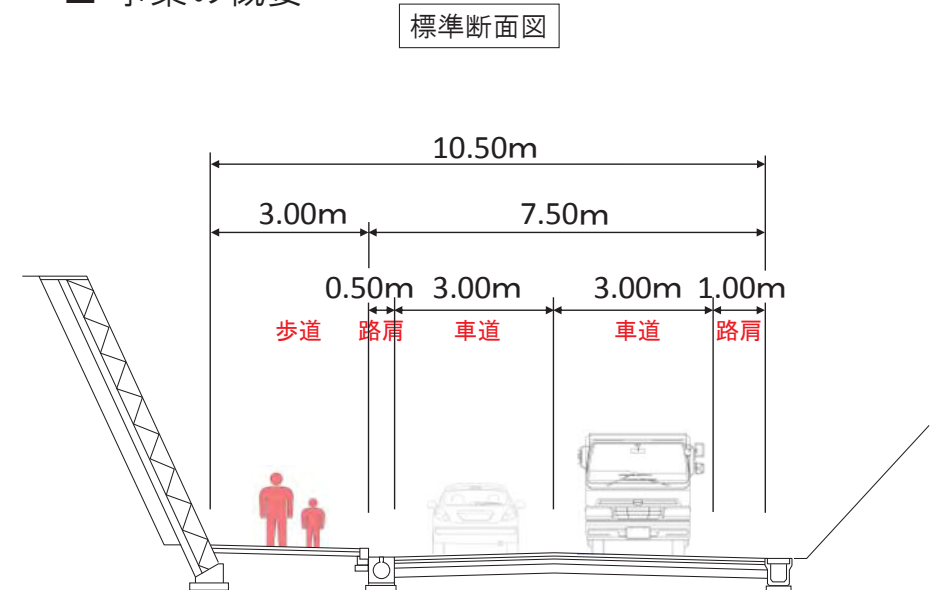
2

■ 事業の概要



3

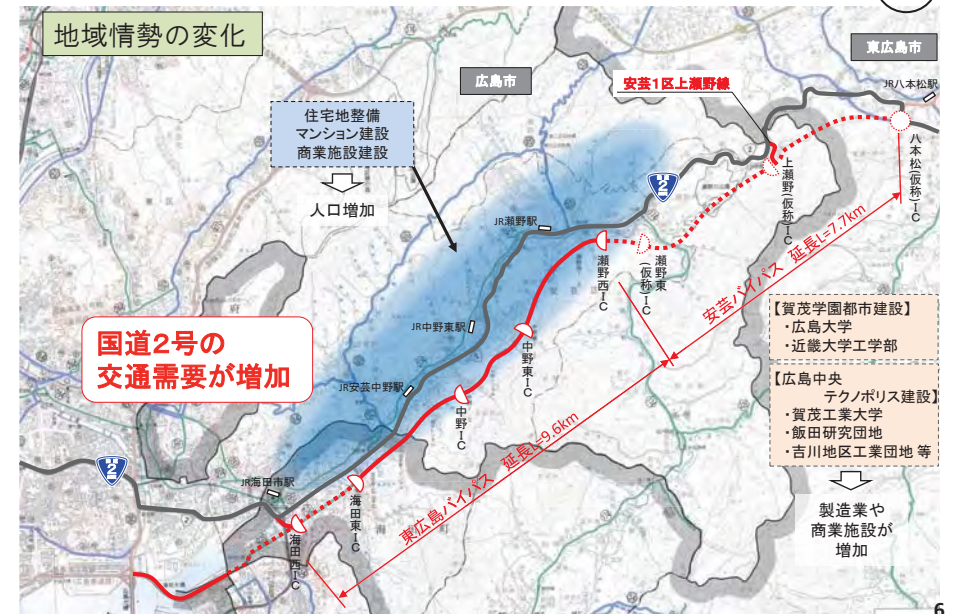
■ 事業の概要



4

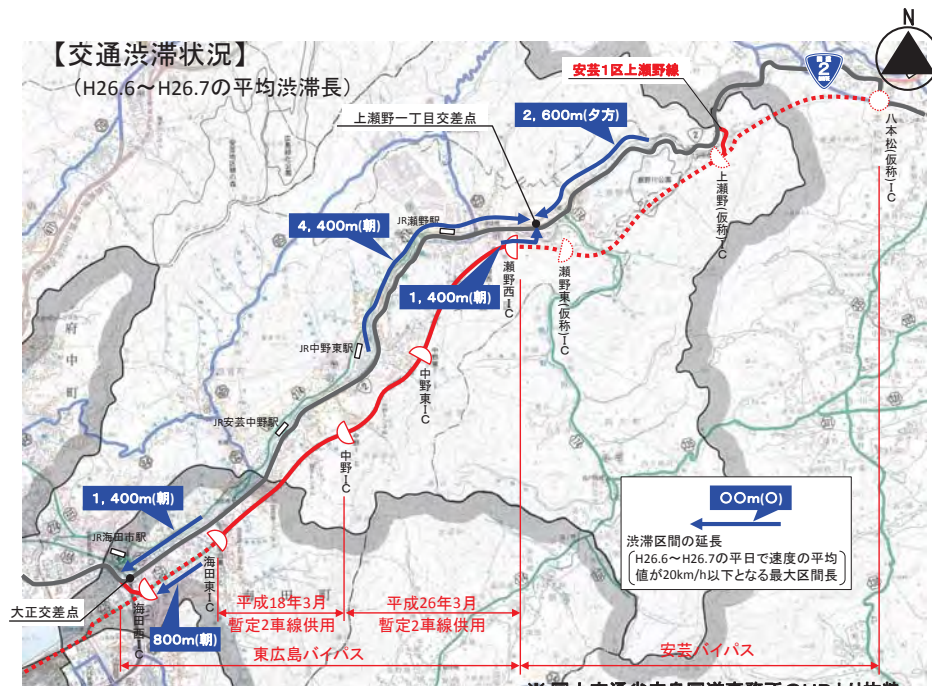
再評価の視点

① 事業を巡る社会情勢等の変化



5

6

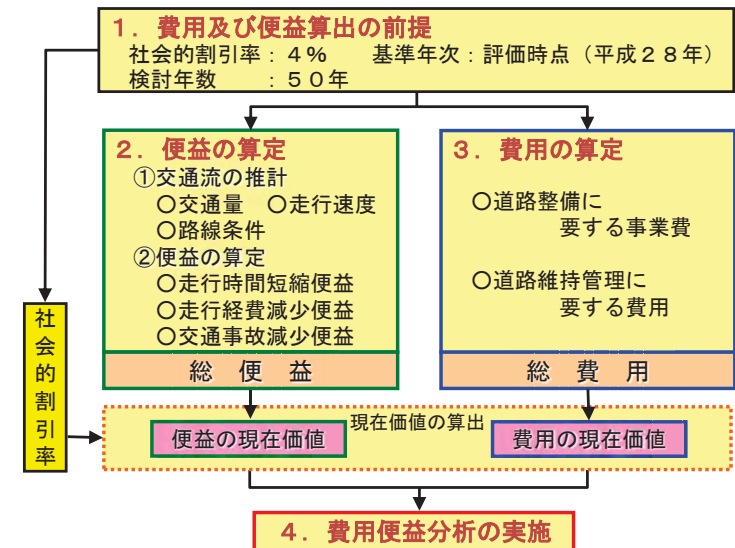


※ 国土交通省広島国道事務所のHPより抜粋

7

② 事業の投資効果

費用対効果分析のフロー



〔「費用便益分析マニュアル」（国土交通省 道路局 都市・地域整備局 平成20年11月）より作成〕

8

② 事業の投資効果

費用対効果分析の結果

○事業全体 費用便益比 $(B/C) = 33.9\text{億円} / 16.6\text{億円} = \underline{2.0}$

○残事業 費用便益比 $(B/C) = 33.9\text{億円} / 13.4\text{億円} = \underline{2.5}$

○感度分析 (残事業に対して、各要因を変動させ分析)

交通量変動 $B/C = 3.4 (+10\%) \sim 1.6 (-10\%)$

事業費変動 $B/C = 2.3 (+10\%) \sim 2.8 (-10\%)$

事業期間変動 $B/C = 2.4 (+20\%) \sim 2.6 (-20\%)$



○評価結果の投資効率性の観点からの取り扱い

・事業全体及び残事業とも総便益が総費用を上回る

9

② 事業の投資効果

事業の効果や必要性を評価するための指標 (1/5)

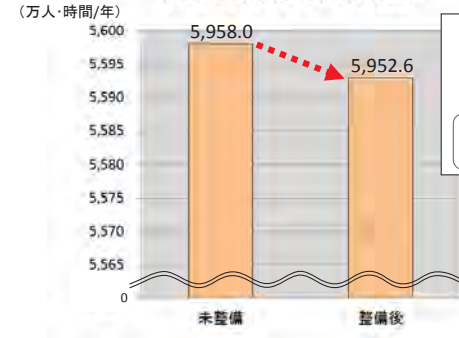
円滑なモビリティの確保

本路線の整備により、国道2号などでの渋滞損失時間の削減が期待できる。

国道2号渋滞状況
(朝ピーク)



年間渋滞損失時間(H42)



【渋滞損失時間削減量】

5.4万人・時間/年

安芸1区上瀬野線の未整備時と整備後との差

10

② 事業の投資効果

事業の効果や必要性を評価するための指標 (2/5)

物流効率化の支援



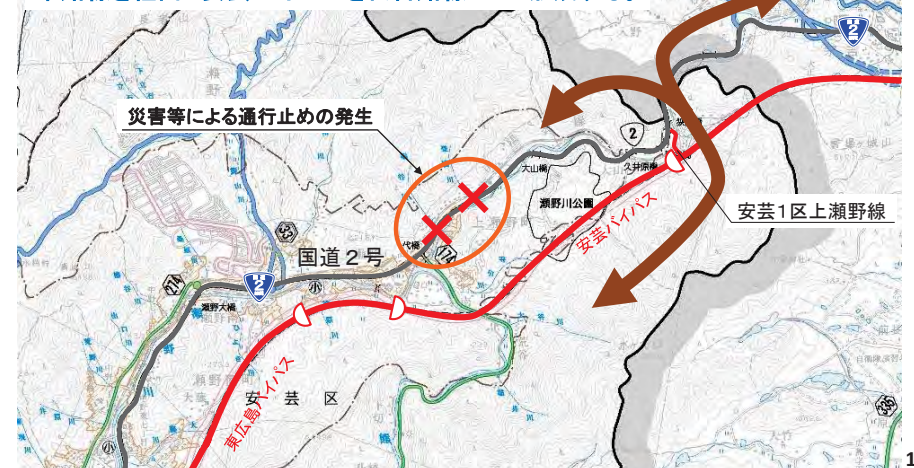
11

② 事業の投資効果

事業の効果や必要性を評価するための指標 (3/5)

災害への備え

緊急輸送道路である国道2号が通行止めになった場合、本路線を経由し安芸バイパスを代替路線として形成する。



12

② 事業の投資効果

事業の効果や必要性を評価するための指標 (4/5)

災害への備え

本路線の整備により、上瀬野地区において幅員6m以上の道路が無い場合、消防活動ができない地域が減少する。



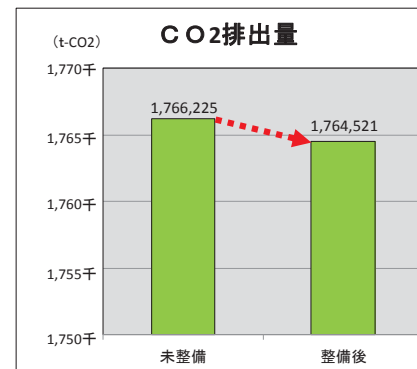
13

② 事業の投資効果

事業の効果や必要性を評価するための指標 (5/5)

地域環境の保全

本路線の整備で、国道2号現道の交通が安芸バイパスへ転換することにより、地区内の旅行速度が向上するため、CO2排出量の削減が期待できる。



環境への影響を考慮した効果
(試算した参考値)

削減されるCO2排出量

約 1,704t-co2/年



CO2の排出量削減による効果

約 493 万円/年

14

③ 事業の進捗状況、④事業の進捗見込み

- 用地取得は完了。
- 平成26年度より工事着手し、現在の進捗率は事業費ベースで約12%。
- 本年度は橋りょう下部工事を施工。
- 今後も引き続き工事を推進し、平成30年代前半の完成を目指す。



15

⑤ コスト削減や代替案立案等の可能性

1 コスト削減の可能性

- ・本路線の残る工事において、効率的な施工の計画や建設副産物の発生抑制及び再生材利用等により、コスト削減に努めることとする。

2 代替案立案等の可能性

- ・本事業は道路事業で整備を進めているが、安芸バイパスのアクセス道路として都市計画決定されている都市施設であり、既に用地取得が完了し、工事にも着手していることから、ルート変更などのような道路の計画自体を見直す必要はないと考えている。

16

■ 対応方針（案）

対応方針（案） 事業継続

対応方針（案）の理由と今後の方針

本路線は、国土交通省において整備している安芸バイパスと国道2号現道を接続するアクセス道路として、安芸バイパスと一体的に整備を進めている路線であり、国道2号現道の慢性的な交通渋滞の緩和や交通の安全の確保を図るとともに、東広島バイパス及び広島南道路と一体となって広島中心部と山陽自動車道とのアクセス強化による物流の効率化に寄与するものであり、更に災害時の緊急輸送道路の代替路線としての機能を果たすものである。

これらの整備効果は、安芸バイパスと一体となって発現されることから、引き続き、バイパス整備に合わせて事業を継続し、平成30年代前半の事業完成を目指す。

17

以上で説明を終わります。

ご審議の程よろしくお願いいたします。